



1 はじめに

近年、持続可能な社会の実現に向けて世界規模でSDGsが注目されており、生態系の保全活動も課題の一つとなっている。私たちは、茨城県版レッドデータブック(2012年改訂版)において、サクラ属において最も絶滅の危険性が高いミヤマザクラを調べた。このサクラは県内では筑波山が唯一の生育地であり、今までに**2個体**が確認されていたが、詳細な個体数や生育状況の不明であったため、昨年度(2024年5月から8月)筑波山の「男体山」、今年度(2025年5月から7月)筑波山の「男体山」と「女体山」の安全に配慮した範囲で個体数調査を行った。

2 ミヤマザクラの特徴

(1) 葉について

- ・2重鋸歯
- ・倒卵状長楕円形
- ・先端は鈍い
- ・裏表、葉柄に毛が密生
- ・蜜腺は葉身基部に位置する



写真1 ミヤマザクラの葉

(2) 花序について

- ・サクラ属で、唯一「総状花序」
- ・花弁は「先端に切込が無し」
- ・花柄に「毛が密生」
- ・花期は「5月初旬から中旬と遅い」
- ・葉が展開の後、花序が見られる



写真2 ミヤマザクラの花

他のサクラ属の特徴

- (1) 葉について
- ・単鋸歯や重鋸歯の場合が多い
 - ・葉柄に蜜腺がある場合が多い
 - ・葉身、葉柄に毛がない場合が多い
- (2) 花序について
- ・散房花序か散形花序を形成
 - ・花弁の先端に切込が有り
 - ・花期は3月末から4月上旬



3 調査の方法

- (1) 黒っぽく横目皮目の樹木を見つけた後、肉眼やカメラの望遠機能、双眼鏡を用いておおよその葉の形を確認した。
- (2) ミヤマザクラの可能性のある個体について、葉を採取して同定を行った。
- (3) ミヤマザクラと同定できた場合、その個体のGPSによる位置測定や幹の胸高周囲長(直径に換算)、樹高、生育状況を記録した。

4 結果

男体山において調査前に確認されていた2個体を含め、昨年度で23個体を記録した。今年度、男体山においては、新たに**4個体**を記録し、合わせて**27個体**を記録した。また、女体山においては、今年度**5個体**を記録し、筑波山において計**32個体**を記録した。健全な個体も多くあり、開花・結実した個体や実生、稚樹などを記録した。一方で、部分的な菌類による腐朽や天狗巣病が見られる個体があった。

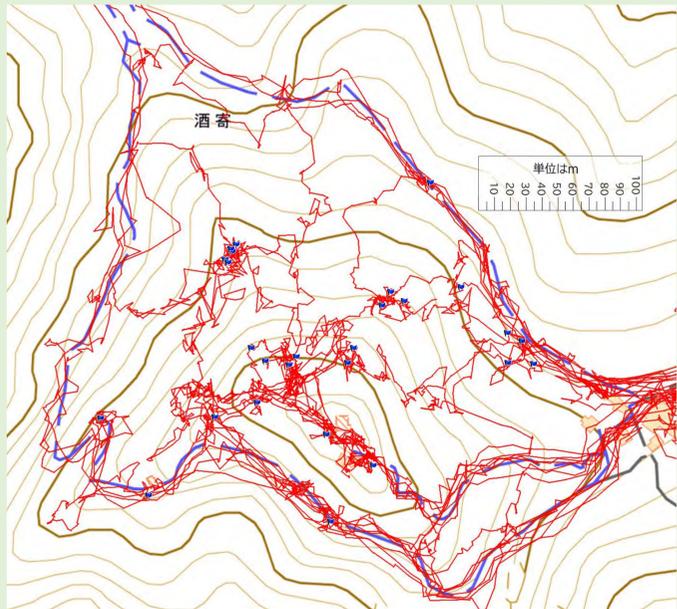


図1 ミヤマザクラの分布と調査範囲のトラックデータ(男体山)



図2 ミヤマザクラの分布と調査範囲のトラックデータ(女体山)



ミヤマザクラの実生



ミヤマザクラの稚樹



ミヤマザクラの果実



天狗巣病のミヤマザクラ

図3 観察したミヤマザクラ

5 考察

筑波山において、今回の調査で、既知の**2個体**を含め、**32個体**を記録した。また、男体山だけでなく女体山においても**5個体**を記録し、当初の予測よりも広範囲に分布していることが明らかになった。

サクラ属にみられる自家不和合性という性質を考慮すると、これだけの個体数が存在することは、交配による新規個体の誕生、すなわち更新が起きていることを示唆している。このことは、以下の観察事実によってさらに裏付けられる。

- 開花：**4個体**で開花が観察され、繁殖が行われる可能性があると考えられる。
 - 結実：**3個体**で果実が観察された。これは受精が成功し、種子が形成されていることを意味する。
 - 実生・稚樹：実生(**1個体**)、稚樹(**3個体**)が記録され、更新が起きていると考えられる。
 - 腐朽・衰退：**12個体**に部分的な腐朽が見られた。この腐朽が枯死につながるとしても、この現象は、自然な更新(世代交代)であると考えられる。
- 今後、筑波山において、これらのプロセスを継続して観察することが重要である。

6 謝辞

県自然博物館 小幡和男先生、飯田勝明先生には、活動の進め方や標本の作成等でご助言をいただいた。また、森林総合研究所 九州支所 勝木俊雄先生には、同定にお力をお貸しいただいた。ミヤマザクラの採取に関しては、筑波山神社 宮司様に協力をいただいた。そして、本校の筒井輝さん、中村美月さん、渡邊愛捺さんには、個体の記録等や植物採取等でご尽力いただいた。これらの方々に、厚く御礼申し上げる。

7 参考文献

- ・日向岳王ほか.2020.第77回 茨自博 さくら展.
- ・大橋広好ほか.2018.改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科～センダン科.
- ・茨城県生活環境部環境政策課(編).2012.茨城における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版.
- ・鈴木昌友ほか.1981.茨城県植物誌.